

# ふれあいコンサート

## －障害のある人といっしょに楽しんだコンサート－

1 学年 第6学年〔中期〕

2 主題名 みんなが一つに〔4-(2)〕

3 ねらい

「私」が「ふれあいコンサート」に初めて行ったときの気持ちの変化を考えることを通して、誰に対しても公正公平にふるまおうとする態度を育てる。

4 資料名 「ふれあいコンサート」

5 展開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導入	1 手話を使って、児童と「おはよう」や「こんにちは」のあいさつをしたり、簡単な歌を歌ったりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 簡単な手話はできる。</li> <li>・ 「おはよう。」という意味だ。</li> <li>・ 耳の不自由な人と話ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 手話をすることで本時に扱う「ふれあいコンサート」について関心をもたせる。</li> </ul>
展	2 資料「ふれあいコンサート」を読んで話し合う。 ○ とびっきりの笑顔で手拍子をしているさゆりさんを見て、「私」はどんなことを思ったのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ちょっとはずかしいな。</li> <li>・ さゆりさん、楽しそうだなあ。</li> <li>・ わたしも、さゆりさんを真似して手拍子をしよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ さゆりさんが、みんなといっしょになって楽しそうにしている様子を押しさえる。</li> </ul>
開	○ 詩の内容を集中して聞いていた「私」はどんなことを思ったのでしょうか。 ◎ 「私」は初めての歌を大きな声で歌いながら、どんなことを考えたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集中して聞いていたら、話の内容が分かってきた。不思議だなあ。</li> <li>・ すてきな詩だなあ。</li> <li>・ 一生懸命に聞いていると分かるんだ。うれしいなあ。</li> <li>・ 音楽を楽しむ気持ちはみんな同じなんだ。</li> <li>・ みんなと一つになれるってすばらしいなあ。</li> <li>・ 障害をもつ人も子どもも大人もみんなが楽しむ心は同じなんだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 詩の内容を集中して聞こうとしている「私」の気持ちを想像させる。</li> <li>○ ワークシートに各自の思いを書かせることにより、話し合い活動が活発に行われるようにする。</li> </ul>
	3 自分たちの生活にもどって、話し合う。 ○ 障害をもつ人とこれからどのように接していこうと思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手話をもっと覚えたい。</li> <li>・ 手話で実際に話してみたい。</li> <li>・ 障害をもつ人の気持ちや立場をもっと考えることのできる人になりたい。</li> <li>・ 人のことを外見で判断することのある自分を反省している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ だれに対しても公正公平に接していこうとする気持ちをもたせる。</li> </ul>
終末	4 教師の話聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ だれに対しても、公平に接することのできる人になりたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「私と小鳥と鈴と」等の詩を紹介することにより、個性を重んじる作者の気持ちに共感させるのもよい。</li> </ul>

## 6 授業の概要

### (1) 主題について

内容項目 4－(2) は、主として集団や社会との関わりに関する「だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正公平にし、正義の実現に努める。」ことをねらいとしている。

この時期の児童は、集団生活の中で人を差別せず、公正公平にふるまうことの大切さを理解している。しかし、外見で人を見たり、自分の欲で不公平な行動をしたりする児童もいる。

ここでは、障害者週間に呉市で行われている「ふれあいコンサート」に参加したよし子さんの気持ちの変化を考えさせることにより、だれとでも分け隔てなく接し、一緒に楽しく生活することの大切さに気付かせたい。

### (2) 自作資料活用のポイント

#### ア 障害者週間との関連

「ふれあいコンサート」は、国際障害者年を機会に呉市で始まったもので、毎年12月の障害者週間に障害者施設のなかまとボランティアによって開催されている。

地域に障害者施設や小規模作業所のある学校では、定期的に交流を行っている場合もあると思われる。本資料では、このような体験を題材として扱うことにより、だれに対しても公正公平に接する態度を育てたい。

#### イ 実施時期

本資料は、児童相互の新たな人間関係を築く1学期の早い時期、または障害者週間の12月ごろに実施するのもよい。

#### ウ ねらいにせまるために

初めて「ふれあいコンサート」に参加した主人公のよし子さんの気持ちの変化を考えていくことによって、ねらいにせまることのできる資料である。また、呉市で毎年行われている「ふれあいコンサート」について知らせることにより、児童の社会的な視野も広げたい。

### (3) 指導過程の工夫

#### ア 導入の工夫

本時の導入では、手話で歌を歌ったり、簡単な言葉を手話で話したりすることにより、障害のある人々とのつながりが日常的なものであることを意識付けたい。児童の実態によっては、車いすマラソンやパラリンピックの様子の映像等から、自分たちが日々行っている持久走やバスケットボールのスポーツと関連させて、そのことを意識付ける等、様々な導入を工夫したい。

#### イ 発問の工夫

「ふれあいコンサート」に初めて参加した主人公の障害のある人に対する気持ちが、友だちのさゆりさんの行動や言葉かけにより、変容していく過程を「『私』は初めての歌を大きな声で歌いながら、どんなことを考えたでしょう。」といった発問等により、おさえることで、ねらいとする価値にせまらせたい。

#### ウ 「ふれあいコンサート」を実感させるための工夫

各学校に配布される「ふれあいコンサート」のパンフレットを利用したり、インターネットから取り込んだ実際の「ふれあいコンサート」の映像や資料に出てくる「ラ・ラ・ラ」のCDを流したりすることによって、本資料の内容を児童に対し、より身近なものとして捉えさせたい。

(警固屋小学校 久保田真弥)